

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月8日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21402001

研究課題名（和文）：医療と文化の連関に関する統計科学的研究—社会格差と生命観ダイナミクスの国際比較

研究課題名（英文）：A study of statistical science on health and culture: a cross-national study on dynamics of social disparity and life

研究代表者 山岡和枝（YAMAOKA KAZUE）

帝京大学・大学院公衆衛生学研究科・教授

研究者番号：50091038

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、国際比較調査を実施し、健康と文化との関係を生命観と社会格差との国際比較研究としてのダイナミクスとして捉え検討することである。本研究での調査結果にこれまでの調査結果に加え、アメリカ、ドイツ、フランス、イギリス、日本の5カ国（RDD調査）および韓国、台湾（面接調査）のデータをもとに分析した。国際比較調査の分析により、国際的理解も深まることが期待される。調査結果はWEBページに公開した。

研究成果の概要（英文）：The aim of the present study was to conduct a cross-cultural survey and examine the relationship between health and culture as a dynamics of cross-cultural study on social disparity and life. Adding all the survey results, the analyses have been conducted using the data of USA, Germany, France, UK, and Japan（RDD survey） as well as Korea and Taiwan（face-to-face survey）. To conduct cross-cultural analyses helps us improving cross-cultural understanding. These survey results released web page to the public.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,100,000	0	5,100,000
2010年度	7,800,000	0	7,800,000
2011年度	1,700,000	510,000	2,210,000
年度			
年度			
総計	14,600,000	510,000	15,110,000

研究分野：社会科学B

科研費の分科・細目：統計科学

キーワード：生命観，社会格差，文化要因，社会調査，国際比較

## 1. 研究開始当初の背景

病気と健康の研究、医療の実践は、一見現

代科学に基づいているように見えながら、実際は非常に根深く文化的に意味付けられた側面が

少なくない。人々の健康状態を左右する要因は、人種 (race) あるいは民族 (ethnic group) により影響を受ける (ペイヤー, 1999)。これまで、林知己夫らは連鎖的比較研究法 (Yoshino & Hayashi, 2002) に基づく計量的文明論 (林, 2000) の立場から、標本調査に基づく実証的データを用いて、「病気の症状の訴え」という態度が深く文化の相違を反映していることを、日欧米7カ国で行なった「7カ国国際比較調査」のデータ解析から浮き彫りにした。一方、身体と社会・文化要因との関連では、近年では自覚的健康度やうつや心身症とソーシャル・キャピタルとの関連なども取り上げられ、「医療文化人類学」(医療人類学研究会編, 1992) や「社会疫学」(Berkman & Kawachi, 2000) が展開されてきた。例えば Kawachi (Kawachi, Kennedy & Glass, 1999) は、人々の寿命と対人的「信頼感」やソーシャル・キャピタル (ボランティア活動への参画など) との相関を報告し、世界的にも注目されている。一方、山岡は、これまでの研究成果として人々の健康度とソーシャル・キャピタルとの関連を分析し、*Social Science&Medicine* 誌等に論文発表してきた (Yamaoka, 2008)。このような検討を重ねる中で、今日世界的問題となっている社会格差と健康格差について、健康をより広い「生命観」という概念からとらえ、グローバルな視点からこれまでの研究を深め発展させていくことが肝要であると考えに至った。そこで本研究は、連鎖的比較研究法を要として、これまでの一連の研究の中で構築されてきた知見に新たな視点を加えて、「医療」と「文化」の多次元の連関を、特に生命観に特化し、社会・文化的要因のうち、健康と深く関連すると思われる要因 (自己開示、信頼感、人間関係 [ゲマインシャフト vs. ゲゼルフシャフト]、家庭観) との関連性について、格差問題を中心に検討する。

さらに健康感には自己開示 (self-

disclosure) が影響する可能性があり、それが文化により異なる可能性があることが示唆された。自己開示の影響は、かねてから指摘されてはいるが、その要因に関して未だ明確な関連が示されておらず、性差も含め、西洋と東洋では大きな相違がある可能性が考えられる。そしてそれは健康感や生命観に深く関わっており、可能性が大きい。このような関連性や相違は西洋と東洋を比較することにより解明できることが期待される。その観点から前回 (科学研究費 (基盤B (海外) 2006-2008) ではアメリカ、ドイツで調査を実施したが、むしろ、ドイツでは性差が少なく、時代の影響なのか、あるいは国民性であるのか、それをさらに検討するため、性差の大きかったフランスと社会格差の大きいイギリスを取り上げ、相違を検討する必要性を強く感じ、本研究の申請に至った。

## 2. 研究の目的

今回の科学研究費交付希望期間内には、特に以下の a)、b)、c) に焦点を当て研究を遂行することを目的とした。

- a) 前回の科学研究費を受けてアメリカ・ドイツで行った、大規模標本調査に基づく医療と文化に関する調査研究を、さらに深め発展させる。
- b) 文化的社会的環境として、特にソーシャル・キャピタルのなかでも前回の調査結果から浮かび上がってきたソーシャル・サポートの質の問題、自己開示、信頼感、人間関係などの国民性、不安感、医療や健康に対する考え方と科学文明観、そのなかに内在する社会・経済格差の影響を、身体的健康、精神的健康、社会的健康を含む生命観との連関について分析する。
- c) 収集した調査結果の情報を元にデータベースを作成し、一般公開する。

## 3. 研究の方法

本研究は大規模標本調査として CATI システ

ムを用いた RDD 電話調査によりフランス、イギリスにおいて調査を実施し、医療と文化に関する調査研究を、さらに深め発展させることを図った。調査実施にあたっては、各国において、基礎資料を収集・整理し、海外での CATI システムを用いた RDD 調査方法論等の情報収集および、これまでに行ってきた国際比較調査データの再分析を進め、問題点の検討を行った。さらに委託する調査機関と RDD 調査方法の詳細な検討を行い、調査方法を決定した。その概要は以下のとおりである。

調査対象は各国に居住し国籍をもつ 20 歳以上の男女とする。調査の実施にあたっては、調査専門機関と十分に調査方法について協議したのちに調査を委託し、実施した。調査項目は、各地域の人々の多面的・多次元な一般的意識構造（人間関係、宗教、教育、健康、家庭、等）や対人関係における「信頼感」などを含む「医療と文化の多次元的連関に関する統計科学的研究」で用いた質問を中心に、社会格差に関する質問項目を勘案し質問票を作成した。

以上の調査結果をこれまでの研究と総合して、社会格差と生命観のダイナミクスについて国際比較という観点から、アジアとの対比を機軸として比較検討する。さらにデータの公開作業を推進させ、これまでの研究成果に関する WEB ページを作成し、一般公開を図った。

#### 4. 研究成果

本研究では大規模標本調査としてイギリス、フランスにおいて調査を実施し、さらに、日本での RDD 調査を統計数理研究所（吉野諒三教授）との共同研究として実施した。これまでに行ったアメリカ、ドイツの 5 カ国での RDD 調査結果に、これまでに我々が実施した韓国、台湾での面接調査結果を併せて、文化的社会的環境として、特に、欧米およびアジア各国の生命観と信頼感、不安感と社会・経

済格差の関連に焦点を当てた分析を実施した。さらにデータの公開作業を推進させ、これまでの研究成果に関する WEB ページ (<http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~yama-hc>) を作成し、アメリカ、ドイツ、イギリス、フランス、日本での RDD 調査結果および韓国、台湾での面接調査結果を含めて、調査方法、調査結果、クロス集計結果を掲載し、一般公開を行った。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 23 件）

1. Kaptein AA, Yamaoka K, Snoei L, et al. Innness perceptions and quality of life in Japanese and Dutch patients with non-small-cell lung. Lung Cancer 2011; 72: 384-90（査読有）
2. Matsuda A, Yamaoka K, Tango T. Quality of life in advanced non-small cell lung cancer patients receiving palliative chemotherapy: A meta-analysis of randomized controlled trials. Experimental and Therapeutic Medicine 2011;368;134- 140.（査読有）
3. 山岡和枝. 特集 行動計量学的アプローチによる栄養教育 巻頭言. 行動計量学 2011; 38(2): 105-106（査読有）
4. 吉野諒三. 文化の多様体解析. 社会と調査 2011;7:5-11.（査読有）
5. 吉野諒三. 世論調査の歴史と理論と実践—データの科学の神髄—. データ分析の理論と応用 2011;1: 23-40.（査読有）
6. Adachi M, Yamaoka K, Watanabe M, Nishikawa M, Hida E, Kobayashi I, Tango T. Effects of lifestyle education program for type 2 diabetes patients in clinics: study design of a cluster randomized trial. BMC Public Health. 2010 Nov 30;10(1):742

- (<http://www.biomedcentral.com/1471-2458/10/742>) (査読有)
7. Yamaoka K, Watanabe M, Hida E, Tango T. Impact of group based dietary education on dietary habit for female adolescents: A cluster randomized trial. Public Health Nutrition 2010; 14: 702-708(査読有)
  8. Watanabe, M, Yamaoka K, Adachi M, Yokotsuka M, Tango T. Validity and Reproducibility of the Food Frequency Questionnaire (FFQW82) for Dietary Assessment in Female Adolescents. Public Health Nutrition 2010; 14; 297-305. (査読有)
  9. Nomura K, Yamaoka K, Nakao M, Yano E. Social determinants of self-reported sleep problems in South Korea and Taiwan. Journal of Psychosomatic Research 2010; 69:435-440. (査読有)
  10. Sakurai K, Kawakami N; Yamaoka K, Ishikawa H, Hashimoto H. The impact of subjective and objective social status on psychological distress among men and women in Japan, Social Science and Medicine 2010; 70:1832-9. (査読有)
  11. Yamaoka K, Subjective Health and Social Factors: Multidimensional Data Analyses of Cross-national Survey, Behaviormetrika 2010; 37: 37-54. (査読有)
  12. 峯村芳樹, 山岡和枝, 吉野諒三. 生命観の国際比較からみた臓器移植・脳死に関するわが国の課題の検討. 保健医療科学 2010;59:109-115. (査読有)
  13. Yoshino R. Reconstruction of trust on a cultural manifold: sense of trust in longitudinal and cross-national surveys of national character. Behaviormetrika 2009;36:115-147. (査読有)
  14. Yoshino R, Nikaido K, Fujita T. Cultural manifold analysis (CULMAN) of national character: paradigm of cross-national survey. Behaviormetrika 2009; 36: 89-113. (査読有)
  15. Fujita T, Yoshino R. Social values on international relationships in the Asia-Pacific region. Behaviormetrika 2009; 36: 149-166. (査読有)
- [学会発表] (計 41 件)
1. Yamaoka K, Zushi M, Tango T. Multivariate meta-analysis of the effects of lifestyle modification on metabolic syndrome: a sensitivity analysis for missing data adopting 'two-stage' approach. East Asia Regional Biometric Conference 2012, Feb. 2-3, 2012, Seoul, S.Korea.
  2. 山岡和枝. 幸福感の国際比較: 医療と文化の RDD 国際比較調査から 第 70 回日本公衆衛生学会, (秋田市) 2011. 10. 20 日本公衆衛生学雑誌 58, 10:
  3. 山岡和枝, 吉野諒三. 健康感の国際比較 日本行動計量学会第 39 回大会 2011 年 9 月 11-14 日 岡山理科大学 岡山, 発表論文抄録集.
  4. 吉野諒三. 文化の多様体解析. 日本行動計量学会第 39 回大会 2011 年 9 月 11-14 日岡山理科大学 岡山
  5. 吉野諒三, 林文. 日本人の素朴な自然観と宗教観. 日本行動計量学会第 39 回大会 2011 年 9 月 11-14 日岡山理科大学 岡山
  6. 吉野諒三, 大崎裕子. 信頼感の測定項目の分析. 日本行動計量学会第 39 回大会 2011 年 9 月 11-14 日岡山理科大学 岡山
  7. Yamaoka K, Yoshino R. Health and Trust on The Asia Pacific Values Survey (APVS).

- The International Conference on Social Stratification and Health 2011. August 6-7, Tokyo, Japan.
8. 山岡和枝. R D D電話調査による主観的健康感と社会文化的要因の国際比較. 第 69 回日本公衆衛生学会, (東京都) 2010.10.29 日本公衆衛生学雑誌 57,10:p399
  9. 村上慶子, 川上憲人, 橋本英樹, 山岡和枝. 地域のソーシャル・キャピタルと身体的・精神的な健康状態との関連第 69 回日本公衆衛生学会, (東京都) 2010.10.29 日本公衆衛生学雑誌 57,10:p394.
  10. Katsuta T, Yamaoka K, Tango T. The statically analysis of prognosis factor in acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis. 31th Annual Conference of the International Society for Clinical Biostatistics. 2010. 8.29-9.2 Universiy of Monpellie, Monpellie, France Programme & Abstract Book p. 89-90
  11. Yoshino R. Cultural Manifold Analysis of East Asia. 東アジア総合研究センター設立記念国際シンポジウム. 2010年3月21日 同志社大.
  12. 吉野諒三. ソーシャル・キャピタルと基本的価値観——国際比較のための文化多様体解析. 少子高齢化・情報化時代におけるソーシャル・キャピタルの政策的含意 2010年3月13日 日本大学
  13. Yamaoka K, Zushi M, Tango T. A sensitivity analysis using multiple imputation method for meta-analysis: the effects of lifestyle modification on metabolic syndrome. East Asia Regional Biometric Conference Feb. 11-12, 2010, India.
  14. Yamaoka K, Study of Social Determinants of Health: International Comparative Study on Subjective Health in Japan and South Korea NIPH・KIHASA Joint Symposium 2009, Dec 18, NIPH, Saitama, Japan
  15. 山岡和枝. 自覚的健康感と社会文化的要因の国際比較. 第68回日本公衆衛生学会, (奈良市) 2009.10.22 日本公衆衛生学雑誌 56,10:
  16. Yamaoka K, Hashimoto H. Graduate School of Medicine and Characteristics of self-rated health indicators examined by nation-wide sample surveys in Japan. The 57th Session of the International Statistics Institute, 18 August, 2009, Durban, South Africa.
  17. 吉野諒三. 信頼感と基本的価値観——アジア太平洋価値観国際比較調査における文化多様体解析. 日本行動計量学会 37 回大会. 2009年8月6日 大分大学
  18. 吉野諒三. 信頼感と基本的価値観——アジア太平洋価値観国際比較調査における文化多様体解析. 日本行動計量学会 37 回大会. 2009年8月6日 大分大学
  19. 藤田泰昌・吉野諒三. 国際政治観. 日本行動計量学会 37 回大会. 2009年8月6日 大分大学
  20. 吉野諒三. ソーシャル・キャピタルと基本的価値観——国際比較のための文化多様体解析. 社会政策学会第 119 回大会 2009 年 11 月 1 日金城大学
- [図書] (計 4 件)
- Yoshino, R. (分担執筆) Brill, Trust—comparative perspectives (Sasaki, M. & Marsh, R.M. [ed.]) Chapter of “Reconstruction of Trust on a Cultural Manifold” 2011; pp381 (内 pp.297-346)
- 吉野諒三, 林文, 山岡和枝. 朝倉書店, 国際比較データの解析 2010.7. pp224

山岡和枝 (分担執筆) 朝倉書店, 医学統計  
学の事典, 丹後俊郎、小西貞則編, pp472.  
2010. 6. ISBN: 978-4-254-12176-6C3541

山岡和枝 (分担執筆) 医学書院, 伊藤正男,  
井村裕夫, 高久史麿編著 医学大辞典 (分  
担執筆) 第2版 2009.1 pp3560

[その他]

ホームページ

<http://www.med.teikyō-u.ac.jp/~yama-hc>

新聞掲載等

1. 読売新聞朝刊平成23年1月3日(水) 掲  
載 「脳死」家族承諾 29 例目
2. 読売新聞朝刊平成22年12月30日(木)  
掲載 「脳死」家族承諾 28 例目
3. 共同ニュース ホームページ平成22年12  
月29日(月) 掲載 脳死, 若い人は肯定的  
移植で国際比較
4. 日本経済新聞平成22年12月27日(月)  
掲載 心臓移植「望ましい」3割 欧米諸  
国の半分程度
5. 時事通信社ホームページ 平成22年12月  
27日(月) 掲載 脳死理解低い日本=移  
植反対は欧米並み少数- 国際比較調査

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山岡和枝 (YAMAOKA KAZUE)

帝京大学・大学院公衆衛生学研究科・教授

研究者番号 : 50091038

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

吉野 諒三 (YOSHINO RYOZO)

大学共同利用機関法人情報・システム研究機

構・統計数理研究所・データ科学研究系・教授

研究者番号 : 60220711

丹後 俊郎 (TANGO TOSHIRO)

昭和女子大学大学院 生活機構研究科 客員教授

研究者番号 : 70124477

小林 廉毅 (KOBAYASHI YASUKI)

東京大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号 : 70178341

林 文 (HAYASHI FUMI)

東洋英和女学院大学・人間科学部・教授

研究者番号 : 00180977

飛田 英祐 (HIDA EISUKE)

国立保健医療科学院・技術評価部・研究員

研究者番号 : 30469952

(研究協力者)

鈴木 達三

統計数理研究所 名誉教授

研究者番号 : 90000190